本校の学習課題　～全国学力・学習状況調査から見えるもの～

文責　伊藤　友文（教務主任）

資料1-1　調査結果

平均正答率(%)	国語	数学
石神井西	67	61
東京都(公立)	61	57
全国(公立)	58.1	52.5

資料1-2 記述問題正答率

平均正答率(%)	国語	数学
石神井西	59.8	40.9
東京都(公立)	49.6	34.2
全国(公立)	45.5	29.3

３年生を対象として４月に全国学力・学習状況調査が行われ、調査結果が夏休みに返ってきました。受検した３年生には個票も返却しますので個人の成果と課題も振り返ってほしいと思います。ここでは２つの資料をもとに本校の成果と課題を分析してみます。

はじめに資料１からです。２つの教科の平均正答率が東京都と全国の平均と比べて高い結果となっています。誇らしい結果であると感じるとともに、注目すべきことは資料１-2 に示した記述問題における正答率の高さです。国語も数学も東京都や全国の平均を大きく上回っています。

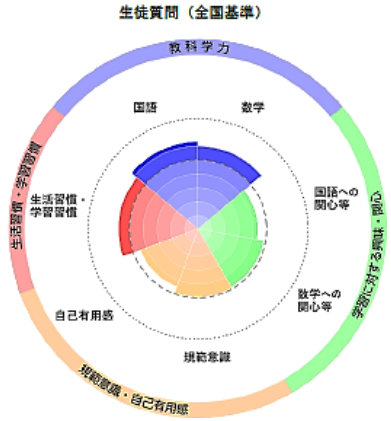
本校では各教科で学習カードやレポートなど書いてまとめたり表現したりする学習課題があります。

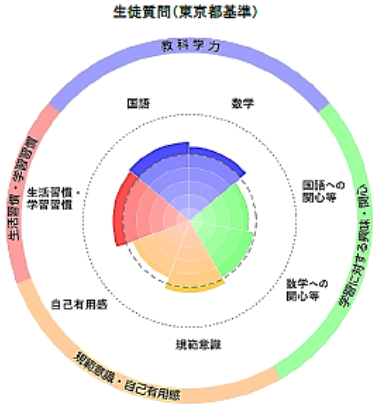
また、日頃の生活記録を記入する”忘れないぞう”や日々の自学ノートなどもあらゆる表現力を高めていると考えられます。多くの場面でのアウトプットを行っているからこその結果だと考えられます。

続いて資料２では生徒質問紙の結果と絡めた調査結果チャートからです。資料１で分かったように教科の学力と日頃の授業のようすから見える学習習慣と規範意識は点線の部分を越えて高い結果となっています。

一方で教科への関心や自己有用感が点線の内側に位置しています。

資料２　調査結果チャート





教科の学力が高く学習習慣が整っているのにも関わらず、教科への関心や自己有用感がその結果に伴っていないことが分かります。「これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず。」という論語の一説があります。知っている人より好きな人が、好きな人より楽しむ人の方が優れているという意味の言葉が当てはまる結果です。好きになることが関心につながり、楽しむことで有用感につながります。日々の授業やテストがただの知識と技能の習得だけにとどまらず、さらに学びたいという意欲をかきたて、自分の身の回りや人生を豊かにするものになるようにする必要があるということがこの結果から感じます。これは我々授業者の反省でもあります。

小学校と比べ、より専門的で難しくなる中学校の学習ですが、本来何かを学ぶことは楽しいものです。季節も夏から秋へと移ろい、過ごしやすい日々が増えてきます。「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく、おもしろいことをまじめに、まじめなことをゆかいに、そしてゆかいなことはあくまでゆかいに。」（井上ひさし）というように学びのあふれる秋にしていきましょう。